

SL 期末レポート

社会福祉学部 社会福祉学科 2年 楠本 眞由子

活動先：NPO 法人 ゆめじろう

ゼミ：松下 典子 先生

私が松下先生のゼミを希望したのは実際に現場や地域に出て自分の目で見て感じて、地域福祉を学びたいという気持ちが非常に強かったからだ。正直サービスマーケティングで何をするのか、具体的な内容は大まかにしかわかっていなかった。まず NPO の存在についてもそこまで深く考えたことはなかったし、制度や金銭的なことも何もわからなかった。しかし実際にサービスマーケティングで「NPO 法人ゆめじろう」に行かさせていただくことになり、NPO とはなんだろう？という疑問と興味を同時に考えるようになった。私たちは短期間に集中して活動を行うのではなく長期間に点々と活動をした。ゆめじろうさんの方との予定も学生同士の予定もあわず、三人一緒に活動することが少なかったため、何かメインとなるような企画を行うことができなかったのが残念である。しかしそれぞれの6日間、非常に貴重な体験をさせていただいた。



一日目はゆめじろうの中にある生活介護と就労支援を行っているひるじろうの活動を見学させていただいた。利用者さんと職員さんの関係はとても良好で利用者さん一人一人にあった支援の仕方であったり、できることをしっかりと把握していた。食事無理にすすめるのではなく、食べられるだけなるべく食べるという感じだった。誤飲予防に飲み物にとろみをつけたり、食材を細かく切って食べやすいように工夫がされていた。食事介助をするところは初めて見たため、ここまでしっかり一人一人に合わせた食事を用意していることを知った。命にかかわることだからなのだと感じた。また七夕が近かったため、利用者さんと一緒に折り紙折ったり、短冊に願い事を書いたり、季節に合った行事のことをすることで利用者さんも飽きることなく作業ができるし、とても楽しそうにしていた。二日目はひるじろうという放課後デイサービスで、対象となるのが主に障害をもつ子どもの活動であった。時間的にはとても短い時間のかかわりであったが、養護学校へ職員さんと一緒にお迎えに行き、子どもたちが職員さんを見つけると一目散に駆け寄ってくる姿を見て、それだけ職員さんのことが大好きで、職員さんに会えたことがうれしいんだなと感じた。ゆめじろうに着くと、それぞれの課題をした。その課題というのもとても単純なもので、箸を使って豆をお皿からお皿にうつす、というものだった。この単純なことでもできたらしっかり職員さんがほめて、それからおやつ、という流れだ。障害のある子どもたちは今やらなければならないことを耳だけで聞いても理解するのが困難なため、写真と文字を使い、目で見てすっと理解できるような工夫が成されていた。こうして少しの工夫で子どもたちは混乱なく生活することができるのだと思った。三日目は、先ほど述べた就労支援を

行っているひるじろうで”じろちゃんコロック”というものを一から手作り、販売をしている場だった。週に三回、場所を変えて地域の方々に向けてコロックを販売している。これがとても好評のようで、常連さんが非常に多い。そして私たちはここで事前にゆめじろうさんの方から渡されたアンケート用紙を使ってコロックを買いに来てくださった方々に答えていただいた。内容は、ゆめじろうの活動内容をどれだけ知っているかというものだった。実際にこたえていただいた方のアンケートを見ると、“コロックを売っていることしか知らない”や“きぐるみのゆめじろうくんは見たことはあるけど…”というように、具体的な活動内容を知っている方は少なかった。たくさんさまざまな活動をしているにもかかわらず、その内容自体を地域の方は知らない。これがやはり松下先生のいう“NPOは広報が弱い”ということなのかと感じた。どんな人がどんな想いでコロックを作っているかを少しでも知っていたら、少しは違った思いでコロックを買ってくれるのではないかと思う。理解をしてほしいとまでは言わないが、知ってほしいという気持ちがこのサービスラーニングを通して強く感じた。そこで私たちは最終日にある”ゆめじろうの夏祭り”で、来ていただいた地域の方々にチラシを配布し、ゆめじろうについてわかりやすく簡単にまとめたチラシを作成しようということになった。外に出ていくものなので、中途半端なものではいけないと、職員さんにもたくさんアドバイスをさせていただき完成した。夏祭り当日は、想像していた以上にたくさんの方が来ていただき、作成したチラシを配布することができた。実際に目を通していただいた方がどれだけいるはわからないが、私たちのサービスラーニングで学んだことや、ゆめじろうのことを少しでも知っていただけたらとてもうれしい。形に残すことができよかったですと思う。報告会では、他のゼミのサービスラーニングの内容や考えを聞き、自分たちとは違った視点から見ているところがあつて、とてもおもしろかった。自分たちの発表でどこまで伝わったかはわからないけれど、活動したことを文字に、図にして誰かに伝える難しさを改めて感じた。そして発表したことに対する返答があつて、それがどんどんつながり議論をすることができればなお一層よかったですと思う。自分の意見を大勢の前で発表するという機会自体が少ないということもあると思うが、せっかくさまざまな人と情報を共有することができるのならば、自分の意見もしっかり言って一つの物事に対してどんどん肉付けをしていけるようになっていきたいと思う。この一年間を通して行ってきたことをこれで終わりにするのではなく、さまざまな人との



出合いを大切に、継続的に何らかの形で続けていきたいと思う。そこで私がやりたいのはさをり織りである。昔から大好きなさをり織りをもっと体験し、たくさんの方にこの魅力を知ってほしい。ゼミ内でも案が出た、学祭で”さをり織りのファッションショー”これはぜひ違う形であっても実現させたいと思う。これに出会えたのもこのサービスラーニングを行ったおかげであるため、日々に出会いに感謝していかなければならないなと心から思う。とても充実した一年間で、たくさんの経験が私を成長させていただいた。